

事務事業評価表（一般事業）

1次評価日（主幹等） 26年3月31日

2次評価日（課長等） 26年3月31日

1 事業名	岡谷市育英基金奨学金事業	コード	101503
-------	--------------	-----	--------

2 担当部課	部等 教育部	課等 教育総務課	作成者 高橋 卓
--------	--------	----------	----------

3 事業概要	目的体系	基本目標	生涯を通じて学び、豊かな心を育むまち		
		政 策	生涯学習の推進	施 策	学校教育の推進
		予算科目	奨学金貸付金、預金利子支払	業務委託	なし（直営）
		実施義務	なし（選択的事業）	国県補助	なし
		根拠法令	なし		

●事業の内容（D0）

4 事業の概要等	*対象者（誰のため）、意図（どのような状態にしたいのか）		
事業の概要 （簡潔に）	高校、大学等に就学する生徒及び学生に対し、資金の貸付を行う。		
目的	対象者	生徒及び学生	
	意 図	経済的理由により就学が困難な学生を支援し、優秀な人材を育成する。	

5 事業の実施内容	*25年度に、いつ・どこで・誰が・何を・どのように行ったか、という具体的な内容		
岡谷市育英基金の設置、管理及び処分に関する条例に基づき、育英資金の貸付及び償還事務等を行った。			
平成25年度 新たに貸付決定 大学・短大 14人、専門学校 2人 審査会 1回開催			
＜育英基金の内容等： 貸付金額（最長償還期間）＞			
高等学校生		月額30,000円（120ヶ月）	高等専門学校生 月額30,000円（180ヶ月）
大学生		月額52,000円（180ヶ月）	短期大学生 月額52,000円（180ヶ月）
専修学校生（高等課程）		月額30,000円（120ヶ月）	
専修学校生（専門課程）		月額49,000円（168ヶ月）	
※新たに入学準備金及び医師を養成する課程（学校）への貸付を創設し、23年度貸付から対象とした。			
入学準備金		医師を養成する課程 1,200,000円（72ヶ月）、その他 200,000円（48ヶ月）	
貸付金		医師を養成する課程 月額200,000円（270ヶ月）	
前年度の課題への対応	償還金の滞納については、電話、督促状の送付、訪問等を行い未収金の減に努めた。		

6 指標の達成状況	*活動指標：この事業の規模、成果指標：この事業によって得られる住民の満足度				
区分	23年度	24年度	25年度	26年度（予算）	
① 活動指標（指標名）	奨学生選考委員会審査会の開催回数			単位	回
実績値	1	1	1		
*指標の説明	奨学生の選考委員会審査会を開催する回数				
② 成果指標（指標名）	貸付者数			単位	人
目標値	16	16	16		
実績値	16	16	16		
達成度	100.0%	100.0%	100.0%		
*指標の説明	育英資金の新たな貸付決定者数				
*目標値の設定方法の説明	H22は緊急経済対策（H21）の採用枠（9人）を上乗せ。H23から新規貸付者は医師養成学校を含め16人以内。				

7 ア) コストの推移

* この事業にかかる費用（人件費は、1人あたり年間800万円で換算）

[単位：円]

区分	23年度	24年度	25年度	26年度(予算)
① 直接事業費	44,176,000	45,888,000	43,824,543	45,300,000
経常経費	44,176,000	45,888,000	43,824,543	45,300,000
臨時的経費	0	0	0	0
* 臨時的経費の説明				
区分	23年度	24年度	25年度	26年度(見込み)
② 人件費	1,280,000	1,280,000	1,280,000	1,280,000
正規職員の人数(人)	0.16	0.16	0.16	0.16
③ 合計コスト(①+②)	45,456,000	47,168,000	45,104,543	46,580,000
前年度比		103.8%	95.6%	103.3%
財源				
一般財源	30,456,000	32,168,000	30,104,543	31,580,000
内訳 特定財源	15,000,000	15,000,000	15,000,000	15,000,000
* 特定財源の説明	基金積立金収入			
④ 活動一単位あたりコスト	45,456,000	47,168,000	45,104,543	
前年度比		103.8%	95.6%	
⑤ コストに関する補足説明				

イ) 補助金負担金の状況

[単位：件、円、%]

補助金負担金名		23年度	24年度	25年度	26年度(予算)
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
ア)の①に含まれる負担金等合計金額及び割合	合計金額	0	0	0	0
	割合	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%

* 行が足りない場合は追加してください

●事業の評価(CHECK)

8 妥当性評価

* 妥当性=行政がこの事業を行う必要性はあるか。

妥当性

高い

評価項目	はい	いいえ
① 現時点で、税金を投入して積極的に関与すべき重要な分野である。	1	
② 民間(企業、NPO、市民団体等)へ委ねることが難しく、市が行う必要がある。	1	
③ 民間(企業、NPO、市民団体等)が行うサービスと類似・競合していない。	1	
④ 国・県の事業、市が行っている他の事業と類似・重複していない。	1	
⑤ この事業の効果は広く市民に還元され、特定者の利益にはなっていない。	1	

9 有効性評価

* 有効性=成果指標(項目7/住民の満足度)は向上しているか。

有効性

高い

評価項目	はい	いいえ
① この事業が属する施策において、この事業の優先度が高い。	1	
② 社会情勢の変化や市民ニーズを把握し、今年度の事業内容に反映した。	1	
③ この事業の目的を達成する上で、現在の方法が最も効果的で低コストである。	1	
④ この事業の利用者が増加した。 成果指標の実績値 前年度比	100.0%	1
⑤ 年度当初に期待した成果が得られた。 成果指標の目標値 達成度	100.0%	1

●改善の内容 (ACTION)

10 具体的な課題と改善

課題	<p>(少ない費用で効率的に事業を行い、市民サービスを向上させる上で、現在課題になっていること)</p> <p>平成13年度からの減免制度導入により、貸付の財源である基金が減少している。 現在償還期間中の貸付者の未償還があり、未償還額が減らない。</p>	
	<p>(上記の課題をふまえて26年度以降に実施する、具体的な改善の内容)</p> <p>償還金滞納整理を強化し、未収金の減額に努める。</p>	
改善方法	改善開始時期	平成26年4月

●次年度の計画 (PLAN)

11 次年度の方針	継続して実施	12 施策評価による26年度の優先度 *H24年度施策評価表より転記すること	B
-----------	--------	---	---